



発行責任者  
堤 敏博

## 【校長室より】

## 「情緒力」

8月20日 授業再開日の全校集会における校長講話の一部を紹介します。

君たちがこの夏休み中に残してくれた実績の一部を紹介します。

まず、世界選手権にも出場した陸上部の後藤君が、インターハイ400mハードルで六位入賞を果たしました。また、インターハイに出場した陸上部、柔道部、全国総文祭に出場した百人一首かるた部、美術部のみなさんは、肌で感じた高いレベルの経験をきっと今後に活かしてくれることと思います。

次に、吹奏楽部のみなさんが、コンクールでの9年ぶりの金賞を受賞しました。私も、会場で共有した決定の瞬間は、本当に感動的でした。演奏する人数が多いほど迫力がでて有利なのですが、金賞受賞校のなかで最小の人数である本校の受賞は、まさに、チームワークの受賞ではなかったかと思えます。

あと一つ、嬉しい報告があります。ある部活動の中学校との合同練習で中学生が熱中症になった際に、その場にいた本校衛生看護科の1年生が応急処置をしてくれ非常に助かったと中学校からお礼の言葉をいただきました。入学して4カ月で身に付けた知識を実際に使えるとは素晴らしいと思います。

さて、今日は、お茶の水女子大学名誉教授で数学者の藤原正彦先生が「21世紀を担う子供たちに重要な3つのこと」について話をします。（藤原先生は、13年ほど前に出版され、ベストセラーにもなった「国家の品格」の著者です。）

1つ目は「論理的思考力」です。つまり、筋道を立てて考える力のことです。このことをすれば、次にこのようなことが起こり、このような結果になるというような、段階を経て、先を見通す力のことです。

2つ目は「知識」です。我々は生まれた時から、いろいろな知識を吸収し、学ぶことで世界が広がっていきます。まず、知識がないと考えは深まりません。小学校で学ぶかけ算の九九や漢字は、強制的にでも覚えることが必要だと思えます。

3つ目は「情緒力」です。これは喜怒哀楽のような生まれつき持っているものではなく、「懐かしさ」とか「もののあわれ」など、教育によって培われるものです。美しいものに感動する力です。3つの中で、この「情緒力」が一番重要であると言われています。その理由の一つに、「人間にとって重要なことの中には、論理では説明できないことがある」というのです。例えば「なぜ、人を殺してはいけないのか」「なぜ、弱いのもいじめをしてはいけないのか」「なぜ、野に咲くスミレが美しいと思うのか」。このことについて藤原先生は、論理的な説明はできないと言われるのです。

江戸時代、会津藩の日新館という藩校に入る前の子弟に対して「しゅう おきて 仕の掟」というものがありました。そこには「年長者の言うことには背いてはなりません」「年長者にはお辞儀をしなければなりません」「虚言を言うことはなりません」「卑怯な振る舞いをしてはなりません」「弱いものをいじめてはなりません」「戸外で物を食べてはなりません」「戸外で婦人と言葉を交えてはなりません」そして、最後にこんな文句で結ばれます。「ならぬことはならぬものです」

「情緒力」は、幼いころの砂場遊び、野山を走り回る、小説に涙する、失恋するなど、あらゆる経験で培われると思います。今後、体育祭、五高祭など、多くの行事が予定されています。そして、このような学校行事は、君たちの情緒力を磨く場になると思います。日常の学習を怠ることなく、限られた時間で、ルールに則って、体育祭と五高祭を成功させましょう。

8月20日 授業再開日の全校集会における校長講話の一部を紹介しました。お子様との話題にしていただければ幸いです。

# 部活動報告

## インターハイに参加して（陸上部）

岩元 一章

8月2日から8月6日までの5日間、三重県伊勢市で行われたインターハイに参加してきました。7種目に9名が出場、そのうち8名が3年生でした。全国大会初出場の選手も多く、練習中は緊張していましたが、どの選手も試合では持てる力を出し切ってくれました。全国の壁は厚く思うような結果が残せない中、男子400mハードルに出場したスポーツコースの後藤颯汰が決勝に進出し、6位入賞を果たしました。応援やサポートをしてくれた選手を含め部員全員で勝ち取った全国入賞です。出場した3年生の多くが「悔しかったけど楽しかった」と笑顔で戻ってきてくれたのが印象的でした。今後は、それぞれが新たな目標に向かって努力することを期待しています。



## 総文祭・全国選手権大会（百人一首かるた部）

私たち百人一首かるた部は、7月27日（金）から開催された選手権大会と8月9日（木）から開催された総合文化祭に長崎県の代表として出場してきました。

選手権大会の団体戦では愛知県の高校を相手に、緊張感を持ちつつも自分のかるたをすることができました。あと一歩及ばず1回戦を突破することができませんでしたが、悔いのない試合をすることができました。次の日の個人戦では入賞を目指して一戦一戦に挑みました。結果、D級で2名入賞することができました。

総合文化祭は、海星高校、長崎北高校、青雲高校、長崎西高校の生徒と長崎県チームを結成し、試合に臨みました。選手権大会とはまた違った雰囲気の団体戦でしたが、一人一人、楽しんで試合をすることができました。

結果として予選リーグを突破することはできませんでしたが、普段対戦することができないような相手とかるたをすることができ、高校生活のいい思い出となりました。皆様の応援ありがとうございました。



## 五島高校 オープンスクール



7月23日（月）に、本校のオープンスクールが行われました。島内外から131名の中学生が来校しました。はじめに、生徒会執行部による学校の説明を行いました。その後、本校職員による模擬授業では各教科に分かれて、高校の授業を体験しました。高校で学ぶ内容を、中学生でもわかるようにアレンジした授業は好評でした。最後に「先輩と語ろう！」と題して、それぞれの中学校を卒業した高校1年生と交流する会を行いました。ここでは、「高校の宿題はどのようなものか」や「部活動は楽しいか」など、高校生活に関する多くの質問が出ました。ボランティアとして協力してくれた1年生も、頼もしい先輩としてしっかりと話をしてくれました。

## インターハイを終えて（柔道部）

8月8日から12日にかけて、三重県津市で行われたインターハイの柔道競技に出場しました。結果としては、3回戦で負けてしまい、目標としていたベスト8には届きませんでした。自分にとってとても良い経験になりました。大学でも柔道が続けるので、大学ではもっと上を目指して頑張ります。



3年6組 山本肇二朗

私は先日サオリーナで行われたインターハイの柔道競技に出場しました。県や九州の時とも違う張りつめた空気があり、どの試合もレベルの高い試合でした。結果は初戦敗退してしまいましたが、最後に自分らしい柔道で挑むことができたので良かったです。応援ありがとうございました。

3年6組 岡村美瑛

## 総文祭（美術部 石田聖紫君）

私は、信州総文祭で多くの優れた作品を見ました。長崎県の高校美術展では見ることでできない題材や技術を目にして驚き、様々な表現を学ぶことができました。また、交流会では、他県の生徒がどのような技術で、どのようなことにこだわり、どのような思いを込めて作品を制作したのかを、本人から聞くことができるととても参考になりました。逆に、自分の作品を他県の生徒がどういう風に見ているのかを聞くことができ、自分が気づかなかった



作品の特徴を知ることができました。この交流会を通して、多くのことを学ぶことができ、今までよりも自分の作品に自信を持てるようになりました。今回の総文祭で学んだこと、感じたことを生かして、これからも頑張っていきたいと思います。

## 吹奏楽コンクール（吹奏楽部）

7月22日、私たちは長崎県吹奏楽コンクールに出場しました。今年は32名で、課題曲Ⅳ『虹色の未来へ』と自由曲『眠るヴィシュヌの木』を演奏しました。自由曲は曲の解釈が難しく、部員同士で何度も話し合



いを重ね、それを生かせるように練習してきました。練習では思い通りの演奏が出来ず、本番が近づくにつれ焦りもありました。しかし、本番は全員の気持ちを一つにして迎えることができました。結果、五島高校は9年ぶりに金賞を受賞することができました。最後まで諦めず頑張ってきた部員を誇りに思います。3年生は引退し、新体制が始まりました。今後は新体制にしかできない音色で、本番ごとに成長することを願っています。引き続き応援よろしくお願いします。吹奏楽部部长 3-2 田中 伶奈

7月22日(日)～28日(土)、6泊7日の日程で3年生は学習合宿に行ってきました。合宿に行く前の生徒達は、「1日10時間40分の学習」に対して不安を感じていたようでしたが、合宿が終わる頃には「時間が足りない」「もっと合宿を続けたい」という思いを抱く生徒も多くなりました。毎朝6時45分からのラジオ体操から始まり、夜23:10までの学習。そしてしおり記入・就寝と厳しくつらい合宿生活を生徒たちはよく頑張りました。楽しみと言えば、美味しい食事と温泉風呂ぐらいではなかったかなと思います。体調を崩す生徒もほとんどなく、生活上のルールをよく守り、生徒一人ひとりの成長が感じられる合宿となりました。



この合宿の成果を3つあげます。

1つ目は、長時間の学習に対する抵抗感がなくなったこと。抵抗感がなくなっただけでなく、集中して長時間の学習ができるようになりました。集中できているから、「あつという間に過ぎてしまう」のです。そしてこれからは学習のやり方と中身の工夫です。



2つ目は、生徒たちが教科の質問を数多くしたこと。質問して理解した内容は、この後も長く記憶に残ります。また、生徒が質問をしたことで、私たち教員も生徒の理解度を確認することができます。質問は双方にメリットがあるのです。

最後に。生徒は、ホテルの従業員の方々、教員（他校に転勤された先生方も含む）、保護者の皆様方に支えられてこの合宿を成功させることができたという感謝の気持ちを持つことができました。この気持ちを元に今度は自分が社会に出たとき、人から感謝されるように高いスキルと知徳をもった人材に成長する必要があります。そのためにこそ、この受験という試練の瞬間を精一杯戦い抜くという覚悟がようやくできたようです。

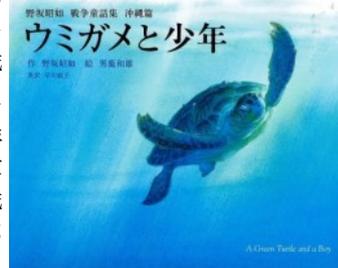
リケジョセミナー



8月1日に五島高校を会場として、「夢・憧れ・志を育むリケジョ育成プログラム”夢セミナー”」が行われました。本校からは来年以降理系を選択する予定の一年生女子と、理系クラスの二年生女子合わせて50名弱が参加しました。午前中の離島の高校出身で現在理系に関わる仕事をしている女性2名からの講演に続き、午後は長崎大学の理系学部の現役の学生や、五島で理系の仕事に携わっている15名の先輩方とざっくばらんに話す「リケジョ・カフェ」が開かれました。年の近い先輩方からリアルなお話を聞くことができ、生徒は理系分野での学びや職業選択においてどのような可能性が広がっているのかを前よりもイメージすることができてきたようです。

平和学習

今年も8月9日、長崎の原爆の日に平和学習が行われ、『第2楽章 沖縄から ウミガメと少年』（野坂昭如作）という沖縄戦を伝える話の朗読を全校生徒で聞きました。生徒の感想の中には「自分がどれだけ幸せなのかを感じました。自分と同じように生きる権利を持ち、親から大切に育てられ、夢を持って生きてきた命が無差別に奪われてしまうことを考えると、戦争は本当に無意味で悲しいものだと思います。（3年女子）」のように戦争のない日常への尊さを感じた内容のものや、戦後73年経ち、被爆、戦争を経験された世代の方々が少なくなる中で、戦争の惨禍を正しく学び、自身が未来へ伝承する責任があること



第67回 体育祭

平成30年9月2日(日)、第67回五島高校体育祭が本校第2グラウンドにおいて開催されます。今年の体育祭テーマは「Try Angle トライ アングル～奏でようみんなの音色～」です。3年生の実行委員や各団役員を中心として「生徒が創り上げる体育祭」をめざし準備を進めています。この体育祭を通じてすべての生徒がより強くたくましく成長することを期待しています。なお、本年度の団割りは右の通りです。

	赤団	青団	黄団
3年	5・7組	2・3・6組	1・4組
2年	1・4組	5・6組	2・3・7組
1年	4・6組	1・3組	2・5組

五高祭



今年度の五高祭は9月9日(日)に開催します。テーマは『キャンパス』。テーマには、生徒一人ひとりの個性を發揮し、また各クラスの特徴を表現することのできる五高祭を作り上げたいという思いが込められています。是非、多くの方々にご来場頂き、私たち生徒の想いを見ていただけたらと思います。

現在は当日に向け、実行委員が中心となって各学級・文化部が全力で発表の準備を行っています。今年も、ステージ発表だけではなく、有志団体や飲食物バザーなど盛りだくさんの内容で皆様のご来場をお待ちしております。

五高祭実行委員長 2-1 中村 信太郎



## 今年も体育祭・五高祭でPTA/バザーを実施します！

・体育祭（9月2日）飲料バザーのみ  
会場で冷たいドリンクを1本120円でお得！

・五高祭（9月9日）バザーのお知らせ

○リサイクルバザー 10:00～13:30 多目的教室2（校舎2階）

○飲料バザー 10:30～13:30 洋の広場 冷たいドリンク 1本120円でお得！

○食物バザー 11:00～13:30 セミナーハウス うどん・カレーを販売します。

※時間は変更の可能性もあります。ご了承ください。

